

■修士論文要旨

# 中国華南経済圏の物流事情に関する一考察

## — 特に深圳港における物流戦略について —

A Study of Distribution Circumstances in the South-China Economic Circle of China

— On Distribution Strategy in Shenzhen Port —

神奈川大学大学院 経営学研究科

国際経営専攻 博士前期課程

楊 鵬 飛

Pengfei Yang

■キーワード

華南経済圏、港湾物流、広東省、深圳港

1978年の中国の改革・開放政策により、中国の南部沿海都市広東省・福建省・海南省、いわゆる華南地域は、市場経済のモデル地域に指定された。深圳・珠海・汕頭が「経済特別区」に、広東省の省都広州が「沿海開放都市」に指定され、海南省が広東省から分離して経済特区となった。経済特区は外資に優遇措置を与えたため、この地域は、香港・台湾及び澳門経由のさまざまな外資と中国の安価な労働力・原材料が結びつき、製造業をはじめとし、経済が急成長している。華南地域の経済発展は中国高度成長の起爆剤の役を果たした。この地域は、香港・台湾及び澳門との関連が強い。近年は1つの局地経済圏として、今後の中国の進路に大きな影響を与えるほどに注目を集めている。

経済や産業が発展していくと、産業構成が第1次産業から第2次産業、第2次産業から第3次産業へ、就業人口の割合や国民所得に占める割合がシフトしていくというペティ＝クラークの法則は知られている。華南経済圏においても、この法則は

同様である。このうち、第3次産業に属する物流というモノを流通させるプロセスがなければ、華南経済の根本となる貿易という作業も行われなない。また、製造企業の活動がグローバル化することに伴い、その企業の中にはグローバル・ロジスティックスやサプライチェーン・マネジメントといった戦略を採用するところも多い。これらの戦略は物流との関係が深く関わっている。そのため、物流産業の発展は製造業の発展、特に海外進出と大きな関係がある。その意味において、物流産業は、華南の経済発展に最も重要な第3次産業の1つと言っても過言ではない。

一方、港湾は、国内外の港湾と連結して物資の物流基地としての機能を果たしている。その周辺には生産基地が立地し、背後地には巨大な消費地を抱えている。港湾内には多様な機能を果たしている港湾産業、具体的には港湾運送事業・倉庫業・通関業及び海運業など多数の企業体が存在して、円滑な港湾物流の実現に大きく貢献している。また、港湾は貿易運送における主要運送形態として

の海上運送と陸上運送を連結させる結節点であり、経済的文化的効用をもたらす特定空間と位置付けられ、流通活動の場・産業活動の場及び都市活動の場として多様な機能を果たしている。このため、港湾は、物流産業に欠かせない非常に重要な要素である。現在、中国では3つの巨大な港湾群が形成しており、それらは、①上海を中央に、江蘇省・浙江省を両翼とする「上海国際航運センター」の建設を基礎として、上海・寧波両港を主とする長江デルタと東南沿海地域、②「香港国際航運センター」の発展を基礎として、香港・広州・深圳の3港を主体とする華南地域、③北東アジアの重要な「国際航運センター」の建設を基礎として、大連・天津・青島3港を主体とする環渤海地域等である。特に華南地域では、経済の躍進により、抜群の国際競争力のある中国製品の輸出と、それを支える資材・部品の輸入によるコンテナ取扱量の年30%を超えるほど、猛烈に伸びている。このうち、広東省にある深圳港が世界第4のコンテナ港となっており、2006年の貨物取扱量はコンテナ1,800万TEUを突破し、貨物取扱量は1.76億トンに達している。

しかし、中国の物流業は先進国に比べて非常に立ち遅れているものであり、産業としての中国の物流業は、まだスタートした段階にある。沿岸部を中心にした経済の躍進に伴う港湾物流の激増は、設備的な対応もさることながら、多岐に渡る複雑な輸入輸出業務・船舶管理・荷役管理・ヤード管理・倉庫管理・運送管理などの業務と、これら仕事を同時に総合的に処理するシステムの構築・運用などの面で、様々な問題が顕在化している。

本論文は、中国の南部沿海都市広東省・福建省・海南省・香港・澳門及び台湾いわゆる華南経済圏の物流事情について考察し、特に港湾物流の視点からこの地域の物流産業の現状を明らかにするものである。また、広東省深圳港に視点を置き、深圳港の現況・管理・運営・発展戦略及び今後の課題についても論述する。

以上の問題意識を基に、本論文は5章で構成し、次のように展開する。第Ⅰ章では、現在中国の

GDPの三分の一にも相当して急成長する華南経済圏を対象とし、その形成・産業構造などに視点を置き、華南経済圏の物流事情を理解するため華南経済の全体な状況を把握し、華南経済の将来性について論述する。

第Ⅱ章では、華南経済圏の中最も経済成長の勢いを見せている広東省に視点を置き、広東省が外資投資による経済発展システム、貿易状況及び産業構造について検討し、広東省の経済全体像を明らかにする。広東省は外資投資によって経済が発展し、莫大な量の原材料・製品の輸出入が行って貿易の発展を推進することによって、港湾物流が成長している。

第Ⅲ章では、華南経済圏全体的な物流市場の概況を明らかにした上で、広東省・香港・福建省・海南省・台湾・澳門の順で港湾を中心として、各地区別に物流現状や拡大する物流ニーズに応じるインフラ整備について考察する。また、地区毎に抱えている物流に関する問題点についても論述する。第Ⅳ章では、広東省に視点を絞って、広東省の港湾物流について考察する。本章は、広東省の港湾概況及び主要港の広州・深圳・珠海・汕頭・湛江に関して論述するものである。

第Ⅴ章では、急成長する深圳港の現状・管理・運営などについて考察し、深圳港の今後の発展する中に存在する課題を論究する。